

2. 防災・減災が主流となる社会を目指すもの

「防災・減災の主流化」とは

- 「防災の主流化」という言葉は、国連の国際防災戦略（UNISDR）が2005年に策定したガイドラインで用いられている。※英語原文：Mainstreaming Disaster Risk Reduction
- 我が国では、平成27年3月の第3回国連防災世界会議で採択された仙台防災枠組の中で「防災の主流化」の取組の推進を位置付け。それを受け、平成27年8月に策定した国土形成計画に「防災の主流化」を推進することを記載。



「防災・減災」が主流となる社会

災害から国民の命と暮らしを守るため、**行政機関、民間企業、国民一人ひとりが、意識・行動・仕組みに防災・減災を考慮することが当たり前となる社会**

「防災・減災」が主流となる社会の実現に向けた取組方針・イメージ

行政プロセスや経済活動、事業に様々な主体を巻き込み、**防災・減災の観点を取り入れた「防災・減災×〇〇」の取組を進めていくことにより、防災・減災に関する国民意識を普段から高め、事前に社会全体が災害へ備える力を向上させる。**

- 今般とりまとめた施策が、防災・減災の観点から**国民目線で分野横断的に実施されているか、定期的にフォローアップを実施。**【令和2年7月～】
- 連携（防災・減災×〇〇）や工夫により防災・減災機能が強化された**事例を共有し、良い取り組みを地域・住民個々の活動まで、幅広く展開・拡大**（表彰制度の創設や出前講座の実施など）【令和2年7月～】



取組のイメージ

※これらの取り組みを防災・減災対策本部で実施

「防災・減災」が主流となる社会の実現に向けた対策の基本的な考え方

- 国民の視点に立った、わかりやすい、抜本的かつ総合的な防災・減災対策を推進（国民目線）
- 河川、道路、港湾、鉄道等の分野別の取組(ハード・ソフト)に横串を刺し、平時から非常時、復旧・復興時に至るすべての時間軸で、国土交通省の強みである現場力を活かしながら、国・県・市、企業・住民連携を強化（手段・主体・時間軸の3つの総力）

【1. 切迫する災害に対する危機意識を共有・発信し、全ての施策を国民目線に再編】

- ・地球温暖化が確実視され、巨大地震が切迫していること等について、国民・市民との危機意識のより一層の共有・発信
- ・行政が行う防災対策をわかりやすいものへ転換

【2. 主体・手段・時間軸の総力で対応】

2-1. 分野別の取組に横串を刺し、あらゆる主体が連携（主体の総力）

- ・企業や住民による主体的な防災対策の充実・強化、他省庁との緊密な連携を強化するとともに、省内横断的な施策の充実・強化、地方自治体や企業との連携施策の充実・強化

2-2. ハード・ソフトの一体となった対応（手段の総力）

- ・河川整備、流域での貯留施設等の整備、浸水リスクを考慮した土地利用規制・誘導等を組み合わせた総合的な水災害対策の全国展開

2-3. 平時から非常時、復旧・復興時に至る時間軸で対応（時間軸の総力）

- ・管理不全土地対策・所有者不明土地対策の推進、地籍調査の迅速化等により事前防災対策から復旧・復興までの対応を円滑化

等

富良野市 防災マップ 市街地区

この地図には、空知川、富良野川、ベレレイ川、ヌッカシ富良野川、シブケウシ川、北一号川、二線川において、想定する最大規模の大雨により浸水が想定される区域を示しています。大雨の規模は下記のとおり。
 ●空知川 72時間総雨量385mm(概ね1000年に1度程度の大雨)
 ●富良野川・ベレレイ川・ヌッカシ富良野川 24時間総雨量448mm(概ね1000年に1度程度の大雨)
 ●シブケウシ川、北一号川、二線川 簡易ソフト(IRIC)を使用し、最大規模(概ね1000年に1度程度)の雨量及び浸水深を計算

地図の見方

- 防災関連施設の見方
- 広域避難場所
 - 指定緊急避難場所
 - 指定避難所
 - 福祉避難所
 - 市役所・支所
 - 消防署・出張所
 - 警察署・駐在所
 - 病院
 - ヘリポート

- 川が浸水するおそれのある箇所凡例
- 水の深さが 5.0m ~ 10.0m
 - 水の深さが 3.0m ~ 5.0m
 - 水の深さが 0.5m ~ 3.0m
 - 水の深さが 0.0m ~ 0.5m
 - アンダーパス

- 早期の立退き避難が必要な区域
- 氾濫流によって家屋倒壊等の危険がある区域
 - 河岸侵食によって家屋倒壊等の危険がある区域

着色された色の見方

- 5.0m~
 - 3.0m~5.0m
 - 0.5m~3.0m
 - 0.5m未満
- ※マップに着色された色は、それぞれの地点の最大浸水深を示しています。
 ※この図は、標準的な建物の大きさと浸水深との関係を示しています。

避難所一覧

No.	避難所名称	所在地	洪水時対応
1	ふらの農協駐車場	朝日町1番	
3	錦町公園	錦町12番	
4	富良野市陸上競技場	柱木町5番	
5	朝日ヶ丘総合公園駐車場	字下御料	
3	富良野スポーツセンター	柱木町5番10号	●※
4	富良野文化会館	弥生町1番2号	●※
5	富良野看護専門学校	弥生町5番1号	●※
6	富良野地域人材開発センター	西麻町1番1号	●※
7	北の峰コミュニティセンター	北の峰町8番1号	○
8	富良野自動車学校	字西扇山2	●※
1	富良野西中学校	柱木町1番1号	●※
2	富良野小学校	若松町10番1号	●※
3	富良野高等学校	末広町1番1号	●※
4	扇山小学校	緑町2番20号	●※
5	富良野緑峰高等学校	西町1番1号	●※
6	富良野東中学校	瑞穂町1番30号	●※
7	東小学校	北麻町8番1号	●※
1	ふれあいセンター	春日町12番5号	●※

※ハザードマップでは浸水想定区域であるが避難所が2階以上である施設、水害時は2階以上に避難し、1階を使用しないこと

地図の範囲



雨の降り方によってはこの図に示されていない場所でも浸水する可能性があります。浸水深も深くなる場合がありますのでご注意ください。



避難所

避難場所の種類

- **広域避難場所（陸上競技場など）**

市街地大規模災害などから一時的に避難する公園など

- **指定緊急避難場所（文化会館など）**

切迫した災害の危険から逃れるための一時的な避難施設

- **指定避難所（学校など）**

災害によって自宅に住めなくなってしまった場合などに
避難生活を送る施設

- **福祉避難所（ふれあいセンター）**

大規模災害などにより、多数の市民が長期間の避難を余儀なくされた場合に要配慮者を受け入れる場所

断水時
給水拠点

公園の貯水槽が断水時の給水拠点に！

ひかり交流
広場公園

- ひかり交流広場公園(天童市)は、耐震性貯水槽をはじめ、災害時に簡易トイレとなるマンホールやかまどベンチなどを備えた**防災拠点として整備**されている。
- 平成25年7月に起きた大雨によって断水が発生した際、**公園が給水拠点**となり、**訪れた4千人**近くの市民へ、**50t(推定)の飲料水**を供給した。



【効果】断水時の給水拠点として機能発揮

平成25年7月に起きた大雨により、村山広域水道の取水が不可能となり、断水が発生。その際、一時避難所にもなっている、ひかり交流広場公園が給水の拠点となり、**整備した耐震性貯水槽が機能し、多くの市民へ飲料水の供給を行うことができた。**

8日間延べ利用人数: 3,843人
給水使用量(推定) : 50t(100t貯水タンク)

【ストック効果向上に向けた取組】 防災訓練の実施

年1回、地域の自主防災会の役員をはじめ、地域住民と防災訓練を実施。防災訓練の経験が断水時に発揮され、迅速な対応につながり、地域の自主防災会が率先して給水活動に従事した。



【地域の自主防災会訓練状況】



【上下水道事業所職員による使用訓練状況】

- 瑞穂東公園(酒田市)は、地域の子どもたちの身近な遊び場であるとともに、**豪雪災害など大雪時に雪捨て場等として活用**し、地域の安全・安心の確保に寄与。
- 公園の一部を、地域住民の雪捨てや除雪車両の進入に耐える構造に改善するとともに、**地域と協働による整備により公園の活用を促進**。

Before



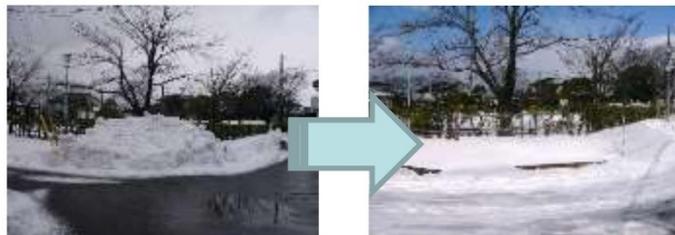
【以前の出入口は平板ブロック構造
(車両に耐えられない)】



After

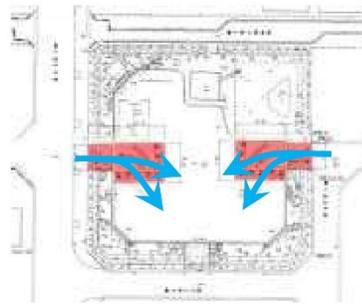


【車両にも耐えるコンクリート版構造に強化
(公園施設の破損防止)】



【道路除雪によって交差点の角に生ずる雪山が解消】

⇒交差点視距の確保・交通安全、通学路の安全確保、公園生垣など施設破損が減少



【地域での除雪説明会における
苦情や要望が減少】

【効果】大雪時の雪捨て場として貢献

- 地域住民が雪捨て可能な公園として認知、利用
- 交差点雪山の解消(交通安全、生垣破損防止)
- 道路除雪(排雪)経費の低減、排雪時間減少
- 除雪苦情の減少

More...

【一層のストック効果向上に向けた取組】 地域協働作業

コンクリート版に描いた絵に、地域の児童が色付け作業を手伝う。身近な公園として利用促進につながるよう公園の整備に関わりを持たせ、公園を一層大切にする意識の醸成を図った。



広場の防災対策 事例

三軒茶屋ふれあい広場（世田谷区太子堂）

- ・ 防災目的の広場で、屋根付き
- ・ ベンチ等の休憩機能の設置は少なくし、中央部はいつでも利用出来るように大きく開放
- ・ 家庭用簡易物置が設置され、そこには防災グッズ等が収納
- ・ その物置の一つには、災害用マンホールトイレも収納されており、非常時への備え
- ・ 当該広場の配置場所は商業地の中にあり、近接地に商店街も広がっていることから条件的には本市とかなり似通っている。

